

特集 いま、彦根の屋根が面白い

ひこね街の駅寺子屋カ石で、毎月第3土曜日に開かれている「それぞれの彦根物語」では、5月に杉原正樹さんによる「鍾馗さんにはかなわぬ、波兔」(No.91)が、11月には鈴木達也さんによる「鍾馗さんを探しにまちへ出よう」(No.96)が発表されました。そこで、彦根の屋根の上のさまざまなデザインに注目してみました。

それぞれの彦根物語96 11月17日(土)

鍾馗さんを探しにまちへ出よう

鈴木達也 (まち遺産ネットひこね)



この日が初公開となる「ひこね鍾馗さんマップ」と、まち歩きイベント「鍾馗さんを探しにまちへ出よう」が紹介されました。

鈴木さんによると、彦根市内には70体ほどの鍾馗さんがあり、マップでは中心市街地の歩ける範囲の15体を掲載したとのこと。まち歩きイベントは、11月24日(土)14時に宗安寺前を出発し、「鍾馗さんを探せ」の著者小沢正樹さんが来られて解説されました。

鈴木さん達「まち遺産ネットひこね」は、彦根市男女共同参画センター「ウィズ」の学習会で知り合った歴史好き5名で結成された団体で、代表の尾田

英昭さんは、「身近な暮らしの中にある歴史遺産である「まち遺産」を掘り起し、そのすばらしさを多くの人に知ってもらい、まち遺産の保存と活用を図りたい。」と語られました。

主な活動である「ぶらひこね」プロジェクトは、「まち遺産」を発見し広く紹介するマップづくりから始め、まち歩きイベントによって実際に現地を巡って楽しんでもらおうというもので、2012年の湖東地域定住自立圏「地域創造事業」に採択されました。

ひこね鍾馗さんマップ

「ひこね鍾馗さんマップ」には、花しょうぶ通りの「とばや旅館」の屋根から通りをにらむ鍾馗さん、登り町グリーン通り商店街の結納屋・中村松寿堂の奥の民家の門、主屋の屋根の両端、蔵、離れの5つの異なる鍾馗さん。長松院前の民家の不思議な造形の鍾馗さん、長松院の北側民家で、長松院をにらみ昭和初期にご主人を病気から救った鍾馗さんなどが紹介されています。

宗安寺の周辺にも寺をにらむ3体があり、その一つである奥野医院では20年前に鍾馗さんが屋根に置かれたといわれています。その近所には、明性寺をにらむ鍾馗さんが2体あります。

彦根は鍾馗さん分布の北限！

鍾馗さんは、中国生まれの道教の神様で、魔除けとして信仰を集め、京都を中心に、滋賀、奈良、大阪、三重、愛知に分布しています。滋賀では、湖東・湖南に広く分布するものの、湖北・湖西ではほとんど見られません。彦根は、鍾馗さん分布の北限といわれます。

彦根の鍾馗さんは、お寺の近くにあり、お寺の屋根の立派な鬼瓦は魔除けの役割を果たしていますが、鬼瓦によって除けられた魔が近くの民家にふりかかってしまうため、これをはねかえす目的で、鍾馗さんが置かれています。

お寺とは関係なく通りに向かってひさし屋根に置かれる京都の鍾馗さんとは異なる特徴です。



鍾馗さんと外堀を使ったまち歩き観光

鍾馗さんは、小さくて見つけにくいだけに、見つけられると楽しい。普段は歩かない路地を歩くことで、まちの奥深さが見えてくる。さらに、普段は気づかない町屋の細部にも気づく。たとえば、船町の古い舟倉の屋根にのる大黒様、長曾根の民家の鬼瓦に描かれている波兔にも気づくようになると鈴木さんは言います。



このようなおもしろさを観光とまちづくりの両方に生かそうと、鈴木さん達は、まち歩

き観光の実現をめざしています。「ぶらひこね」プロジェクトでは、「ひこね鍾馗さんマップ」につぐ第2弾「彦根城外堀マップ」を作成しており、12月20日に彦根市民プラザで開催される歴史手習塾「彦根城の外堀今昔」で、初めて公開されます。いまは完全に埋められている彦根城外堀に、どんなまち遺産を見つけたのか楽しみです。

屋根の上は「宝の山」

では、彦根景観フォーラムが見つけた屋根の上の宝物を紹介します。

初めは、鍾馗さん。これは、小さな希少種で「ひこね鍾馗さんマップ」の助けがないと到底発見できません。

宗安寺の鬼瓦と鍾馗さん（下図の赤い円内）がにらみ合う姿は、なんともユーモラス。鬼瓦にはね返され、鍾馗さんに睨み返された魔はどこへ行くのでしょうか？



次は、長曾根町の三連倉で、彦根物語91以来探していた波兔を発見。その隣の倉には巨大魚が、しかも、屋根の両端でデザインが違う波兔と巨大魚が見つかります。



鈴木さんが紹介された船町にある古い船倉の屋根の恵比寿さんと大黒さん。



その隣の屋根にも恵比須さんと、芸術的な迫力のある寿老人（？）が見つかります。



松原町の古い船倉にも、魚屋町の商家にも恵比寿さんと大黒さんが載っています。これらは、商売繁盛を願ったもので、屋根の上の産業遺産です。

もうひとつ、家系遺産というべき鬼瓦があります。井桁は井伊家の家紋で、修復された尾末町の池田家長屋門には、2枚矢羽の家紋の鬼瓦が載っています。民家にも長の字のつく鬼瓦や、どう読むのかわかりませんがユニークな鬼瓦がたくさん発見できます。

（堀部 栄次）

